



平成25年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年8月10日

上場会社名 21LADY株式会社 上場取引所 名  
 コード番号 3346 URL http://www.21lady.com/  
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)藤井 道子  
 問合せ先責任者 (役職名)取締役 (氏名)北川 善裕 (TEL)03(3556)2121  
 四半期報告書提出予定日 平成24年8月10日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第1四半期の連結業績(平成24年4月1日~平成24年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第1四半期	708	4.7	△15	—	△17	—	△19	—
24年3月期第1四半期	677	—	△37	—	△38	—	△40	—

(注) 包括利益 25年3月期第1四半期 △21百万円(—%) 24年3月期第1四半期 △45百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第1四半期	△503 57	—
24年3月期第1四半期	△1,017 54	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年3月期第1四半期	1,061	57	4.8
24年3月期	990	79	7.2

(参考) 自己資本 25年3月期第1四半期 50百万円 24年3月期 71百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	0 00	—	0 00	0 00
25年3月期	—				
25年3月期(予想)		0 00	—	0 00	0 00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日~平成25年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	1,700	20.6	57	—	54	—	47	—	1,201 28
通期	3,200	17.6	35	—	29	—	15	—	383 39

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
 新規 — 社(社名) 、除外 — 社(社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無
- (4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年3月期1Q	43,947株	24年3月期	43,947株
② 期末自己株式数	25年3月期1Q	4,985株	24年3月期	4,985株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年3月期1Q	38,962株	24年3月期1Q	39,657株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料2ページ「連結経営成績に関する定性的情報」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	2
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	3
4. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 継続企業の前提に関する注記	8
(4) セグメント情報等	8
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	8
(6) 重要な後発事象	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の復興需要により企業収益や個人消費に一部回復の動きが見られましたが、原油価格の高騰や円高の長期化、電力供給問題の影響等から、国内景気は依然として先行き不透明感が強い状況で推移いたしました。

このような環境の下、当社グループは、ヒロタ、イルムス両事業におきまして、引き続き選択と集中による既存直営店強化を中心に、新商品の投入を含めた商品構成の見直し、人材教育による販売力強化及び経営改善計画の達成を目指し取り組んでまいりました。

セグメント別には、次のとおりであります。

## ヒロタ事業

当第1四半期連結累計期間におきましては、主力商品であるオリジナルシュークリームにおきまして、プレミアムオリジナルシュークリームのコラボレーション企画第一弾となる新商品の開発及び販売に取り組みました。この結果、直営店舗におけるオリジナルシュークリームの売上が前年同四半期比8%増と大幅に伸ばいたしました。

ホールセール部門におきましては、生産時間及び物流体制の変更を実施し取引先の条件に対応したことにより、関西圏を中心として取引の再開及び拡大を実現いたしました。

なお、当第1四半期連結累計期間末の直営店舗数は、38店舗となりました。

この結果、売上高451,264千円（前年同四半期比5.2%増）、営業利益15,936千円（前年同四半期比141.9%増）となりました。

## イルムス事業

当第1四半期連結累計期間におきましては、直営店舗の強化及び利益構造の改善、接客サービスの改善に努めてまいりました。平成23年3月、4月に新規オープンいたしました二子玉川店、越谷アウトレット店の新店効果から店舗の売上高は前年同四半期比2.3%増となりました。また、原価率の低減努力から店舗の粗利益高は前年同四半期比5.2%増となりました。更に継続して人件費を中心に費用の抑制を図りました。

なお、当第1四半期連結累計期間末の直営店舗数は8店舗となりました。

この結果、売上高は257,518千円（前年同四半期比3.8%増）、営業損失は15,597千円（前年同四半期は23,496千円の営業損失）となりました。

以上により、当第1四半期連結累計期間は、売上高708,782千円（前年同四半期比4.7%増）、営業損失15,731千円（前年同四半期は37,092千円の営業損失）、経常損失17,053千円（前年同四半期は38,088千円の経常損失）、四半期純損失は19,620千円（前年同四半期は40,352千円の四半期純損失）となりました。

## (2) 連結財政状態に関する定性的情報

## (資産、負債及び純資産の状況)

当第1四半期連結会計期間の総資産は、前連結会計年度末に比べ71,138千円増加し、1,061,265千円となりました。これは主に、流動資産が76,794千円増加したことによるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ92,842千円増加し、1,003,692千円となりました。これは主に、流動負債において買掛金が58,081千円、未払金が21,617千円増加したことによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ21,703千円減少し、57,573千円となりました。これは主に、株主資本において利益剰余金が19,620千円減少したことによるものであります。

## (3) 連結業績予想に関する定性的情報

連結業績予想につきましては、平成24年5月11日発表の決算短信で公表いたしました連結業績予想に変更はありません。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

### (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

### (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

### (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社及び連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

これによる当第1四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

## 3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

当社グループは、当第1四半期連結累計期間において売上高708,782千円、営業損失15,731千円を計上しておりますが、ヒロタ、イルムス両事業において経営改善計画を推進した結果、前年同四半期連結累計期間と比較して営業損失が21,361千円改善しております。

当社グループは、更なる改善を図るために以下の施策について全力を挙げて取り組んでおります。

ヒロタ事業におきましては、主力商品オリジナルシュークリーム・シューアイスにおける「ディスカバージャパン」で日本全国の優れた素材を発掘し、新商品開発に積極的に取り組んでおります。この新商品開発におきましては、販路拡大を視野に入れた異業種とのコラボレーションを今後も積極的に推進してまいります。また、「ブランド価値の向上」を目標に直営店強化を図ると同時に、ホールセール部門におきましても、既存取引先での定番化及び販売先の更なる拡大を進めてまいります。

イルムス事業におきましては、直営店強化に向け「接客サービスの向上」と共に、インテリアのトータルコーディネート提案等による競合他社との差別化にも挑戦し、新規顧客拡大、既存顧客のリピート率の向上に継続して取り組んでおります。また、引き続き効率的な店舗モデルを追求し、利益構造の改善を進めてまいります。更に、より業務効率を高めるべく新規システムへの変更を実施すると共に、秋に新規出店予定である新業態店舗による利益構造の改善を目標とした準備を進めてまいります。

4. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年 3 月31日)	当第 1 四半期連結会計期間 (平成24年 6 月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	169,920	183,504
売掛金	209,472	258,606
商品及び製品	118,402	129,421
仕掛品	1,347	1,819
原材料及び貯蔵品	24,462	26,538
その他	15,826	17,536
貸倒引当金	△2,600	△3,800
流動資産合計	536,832	613,627
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	185,699	180,291
土地	79,937	79,937
その他	83,657	84,365
有形固定資産合計	349,294	344,594
無形固定資産		
のれん	2,756	2,603
その他	6,241	11,430
無形固定資産合計	8,998	14,033
投資その他の資産		
投資有価証券	12,878	11,814
その他	86,473	81,396
貸倒引当金	△4,350	△4,200
投資その他の資産合計	95,001	89,010
固定資産合計	453,294	447,638
資産合計	990,127	1,061,265

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年 3 月31日)	当第 1 四半期連結会計期間 (平成24年 6 月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	171,744	229,826
短期借入金	44,411	43,241
1年内返済予定の長期借入金	52,976	51,428
未払法人税等	13,989	16,213
未払金	278,916	300,533
資産除去債務	600	—
その他	168,195	185,981
流動負債合計	730,833	827,224
固定負債		
長期借入金	24,335	21,752
長期未払金	111,669	112,375
資産除去債務	25,771	25,283
その他	18,240	17,056
固定負債合計	180,016	176,467
負債合計	910,850	1,003,692
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	493,387	493,387
利益剰余金	△415,206	△434,827
自己株式	△103,923	△103,923
株主資本合計	74,257	54,637
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△2,601	△3,666
その他の包括利益累計額合計	△2,601	△3,666
少数株主持分	7,621	6,602
純資産合計	79,277	57,573
負債純資産合計	990,127	1,061,265

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 四半期連結損益計算書  
 第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
売上高	677,109	708,782
売上原価	335,429	347,738
売上総利益	341,679	361,044
販売費及び一般管理費	378,772	376,775
営業損失(△)	△37,092	△15,731
営業外収益		
受取利息	2	14
受取配当金	575	50
貸倒引当金戻入額	—	150
負ののれん償却額	390	—
その他	144	98
営業外収益合計	1,112	313
営業外費用		
支払利息	2,069	1,635
その他	38	—
営業外費用合計	2,108	1,635
経常損失(△)	△38,088	△17,053
特別損失		
災害による損失	712	—
投資有価証券売却損	189	—
固定資産除却損	—	360
特別損失合計	902	360
税金等調整前四半期純損失(△)	△38,991	△17,414
法人税、住民税及び事業税	3,239	3,362
法人税等調整額	2,784	△137
法人税等合計	6,024	3,224
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△45,015	△20,639
少数株主損失(△)	△4,662	△1,019
四半期純損失(△)	△40,352	△19,620



四半期連結包括利益計算書  
第 1 四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第 1 四半期連結累計期間 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成23年 6 月30日)	当第 1 四半期連結累計期間 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成24年 6 月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失 (△)	△45,015	△20,639
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△466	△1,064
その他の包括利益合計	△466	△1,064
四半期包括利益	△45,482	△21,703
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△40,819	△20,684
少数株主に係る四半期包括利益	△4,662	△1,019

## (3) 継続企業の前提に関する注記

当第1四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)

該当事項はありません。

## (4) セグメント情報等

## I 前第1四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他	合計	調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	ヒロタ 事業	イルムス 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	428,853	248,160	677,014	95	677,109	—	677,109
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	428,853	248,160	677,014	95	677,109	—	677,109
セグメント利益又は損失 (△)	6,587	△23,496	△16,909	95	△16,814	△20,278	△37,092

(注)1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△20,278千円は、主に報告セグメントには配分していない全社費用であり、主に持株会社である提出会社に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失(△)と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## II 当第1四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他	合計	調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	ヒロタ 事業	イルムス 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	451,264	257,518	708,782	—	708,782	—	708,782
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	451,264	257,518	708,782	—	708,782	—	708,782
セグメント利益又は損失 (△)	15,936	△15,597	338	—	338	△16,069	△15,731

(注)1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△16,069千円は、主に報告セグメントには配分していない全社費用であり、主に持株会社である提出会社に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失(△)と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## (5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当第1四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)

該当事項はありません。

## (6) 重要な後発事象

## 連結子会社の吸収合併

当社は、平成24年8月10日開催の取締役会において、平成24年9月30日（予定）を効力発生日として、経営効率の向上を目的としたグループ再編の一環のため、当社の100%連結子会社である雷門TP株式会社を吸収合併することを決議いたしました。

## 1. 合併の内容

## ① 合併の日程

合併決議取締役会決議日	平成24年8月10日
合併契約締結日	平成24年8月10日
合併の効力発生日	平成24年9月30日（予定）

## ② 合併の方式

当社を存続会社、雷門TP株式会社を消滅会社とする吸収合併方式で、雷門TP株式会社は解散いたします。

## 2. 被合併会社の概要（平成24年6月30日現在）

① 商号	雷門TP株式会社
② 事業内容	不動産賃貸業
③ 決算期	3月31日
④ 資本金	50,000千円

## 3. 実施する会計処理の概要

本合併は、「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成20年12月26日）及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第10号 平成20年12月26日）に基づき、共通支配下の取引として処理を行う予定であります。